

関西国際大学 卒業生追跡調査 結果報告（2023 年度実施）

キャリア支援センター
評価センター

❖ 卒業生調査について

関西国際大学では、本学での学びやキャリア支援の取組みが卒業後のキャリアや生活にどのように活かされているか、その効果や影響を把握するために、卒業生や就業企業、団体を対象とした卒業生調査を実施しております。

この結果は、今後のキャリア教育や教育効果の検証と質保証、教育活動を改善する取組みなどに活用していきます。

【実施概要】

調査対象	・ 卒業後4年目を迎えた卒業生（2019年度卒業生）：438名 ・ 就業先企業、病院および団体等：292社
調査方法	Web調査
調査時期	2024年 1～ 2 月
回収率	・ 卒業生回答 37件 回答率： 8.4%（昨年度 10.1%） ・ 就職先回答数 92件 回答率：31.5%（昨年度 27.3%）
調査の活用	① 就職指導において業種、進路先名も含めた具体的な指導に活用 ② 教員による入職現場での業務分析 ③ 卒業後の教育成果・教育効果の検証と教育改善への活用 ④ 学外機関などの客観的視点の聴取と教育改善への活用

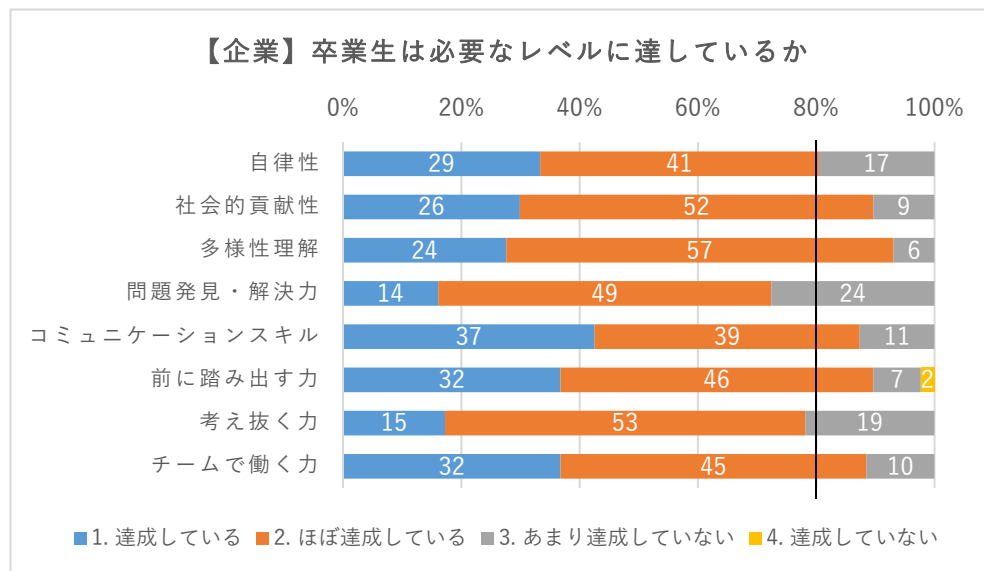
○調査結果分析と今後の改善に向けて

- 企業からの評価として、本学の卒業生はベンチマークに掲げる能力（DP）および社会人基礎力について、求められている能力にほぼ達していると評価できる。
- 経験学習やアクティブラーニングなどの本学の特色として実施してきた教育方法は、卒業後においても長く影響していると思われる。引き続きプログラムの内容を改善しつつ、継続していくことが重要である。
- 一方、専門知識、外国語の運用能力など、いわゆるリテラシー関係の能力向上は不十分だと感じている在学生・卒業生が多い。そのため、専門知識と現実社会との関連の理解に重点を置いた教育を行うこと、また、教育プログラムの中で外国語の運用機会を増やすことが必要である。
- 今回、回答者へのインセンティブを設けたが、回答率の向上には繋がらなかった。他大学の事例も参考に、告知方法などを改善し、引き続き効果測定をおこなう。

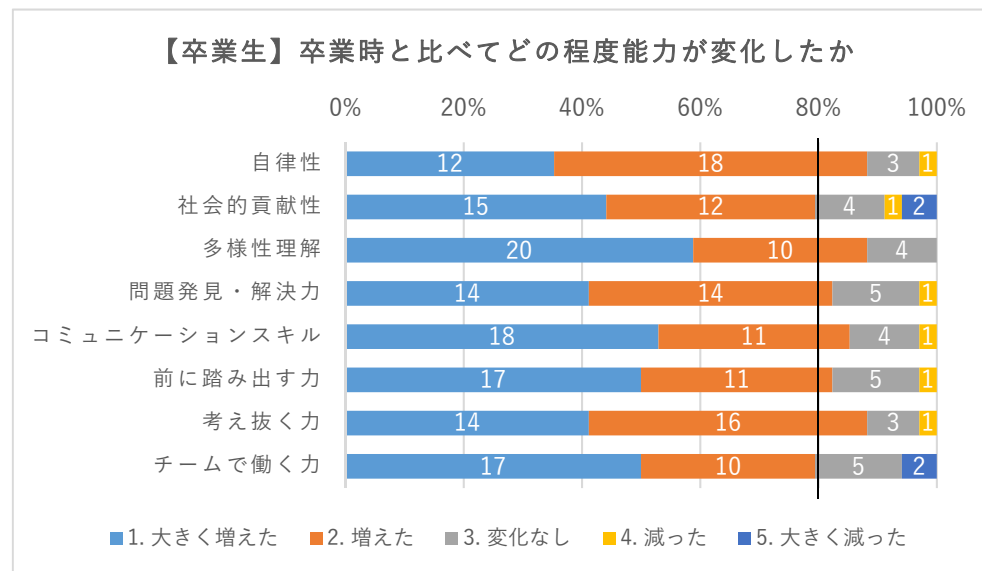
❖ 調査結果 1：就職先企業・団体向け調査結果、卒業生向け調査結果の比較

Q. 8 つの能力・資質について：

〔企業調査〕 本学の卒業生は貴社に必要なレベルに達しているか。(n=87)



〔卒業生調査〕 卒業時と比べてどの程度能力が変化したか。(n=34)



○企業調査：「達成」＋「ほぼ達成している」の回答が 8割を超えた項目は6項目 となり昨年度調査より増加した（昨年度4項目）。

- ・達成率 8 割以上：「多様性理解（93.1%）」「社会的貢献性（89.7%）」「前に踏み出す力（89.7%）」「チームで働く力（88.5%）」「コミュニケーションスキル（87.4%）」
「自律性（80.5%）」 ⇒ **BM に掲げる能力、社会人基礎力はおおむね達成していると評価されている**
- ・達成率 7 割以上 8 割未満：「考え抜く力（78.2%）」「問題発見・解決力（72.4%）」

○卒業生調査：「大きく増えた」＋「増えた」の回答が 8割を超えた項目は6項目 となり昨年度と同様であった。

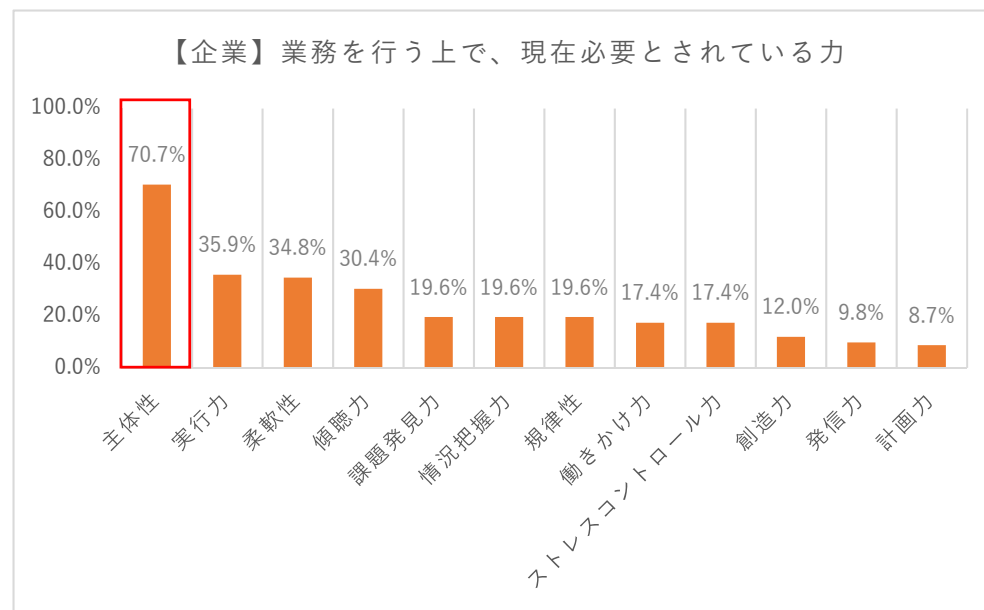
- ・達成率 8 割以上：「自律性（88.2%）」「多様性理解（88.2%）」「考え抜く力（88.2%）」「コミュニケーションスキル（85.3%）」「問題発見・解決力（82.4%）」
「前に踏み出す力（82.4%）」
- ・達成率 7 割以上 8 割未満：「社会的貢献性（79.4%）」「チームで働く力（79.4%）」

◎「多様性理解」「自律性」「コミュニケーションスキル」「前に踏み出す力」は、就職先企業、卒業生ともに評価が高い。（例年通りの傾向）

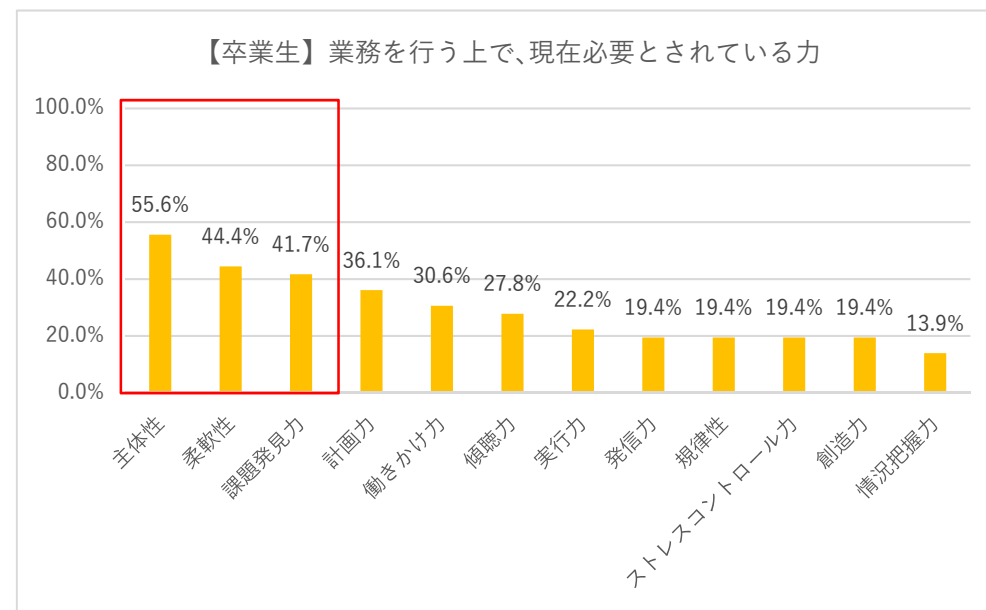
◎就職先企業では「問題発見・解決力」「考え抜く力」は達成度がやや低い。一方、卒業生は伸びていると感じている。⇒ **社会に出てからの方が実感できる場面が多い？**

Q.「社会人基礎力」について

【企業調査】貴社で働く際に特に必要だと思われるもの（上位3つ）（n=92）



【卒業生調査】業務を行う上で、現在必要とされている力（上位3つ）（n=36）



企業調査では、働く際に必要な力として「主体性」が突出している。一方で、卒業生調査では、業務上必要とされている力として「主体性」が最も高い点は企業調査と同様であるが、「柔軟性」「課題発見力」なども4割を超えており、様々な能力が求められていると感じている。※例年通りの傾向

○企業調査

- ・働く際に特に必要だと思われる力：「主体性（70.7%）」
- ・次いで「実行力」「柔軟性」「傾聴力」と続くが4割未満の回答。その他項目は、2割以下の回答となっている。

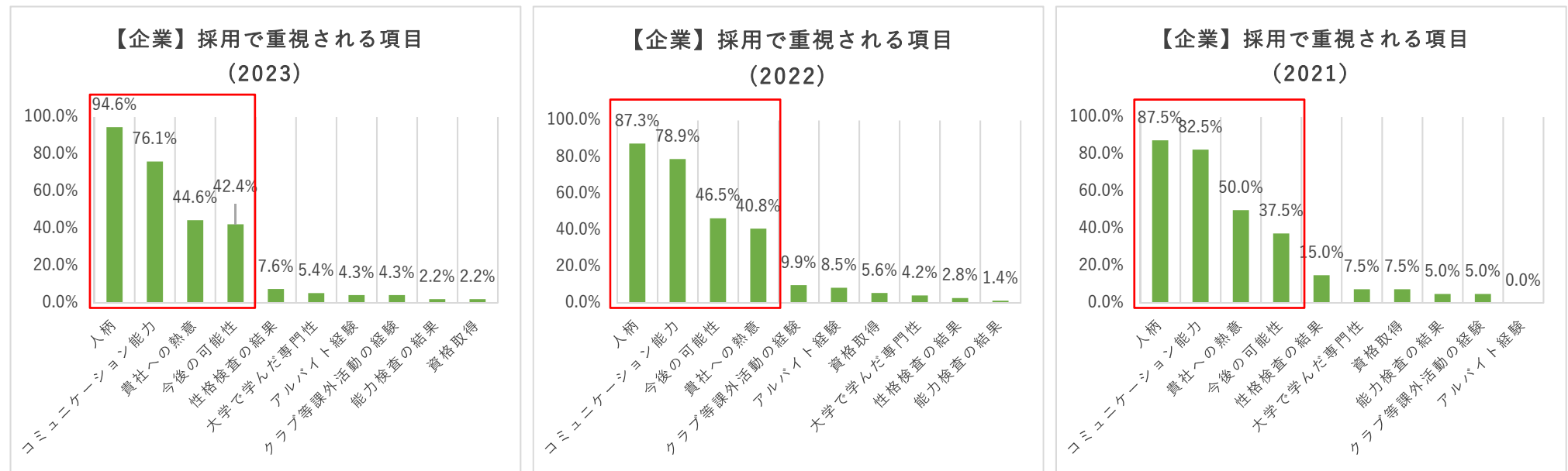
○卒業生調査

- ・業務を行う上で必要とされている力：「主体性」（55.1%）、次いで「柔軟性（44.4%）」「課題発見力（41.7%）」と続く。

◎就職先企業は①主体性、②実行力、③柔軟性（例年と同じ）、卒業生は①主体性、②柔軟性、③課題発見力と企業と卒業生の結果にやや違いが出た。

◎就職先企業は、働く上で「主体性」を強く求めているのに対して、卒業生は「主体性」を筆頭にそれ以外の能力も比較的満遍なく求められていると感じている。

Q. 【企業調査】採用選考で重視される項目（上位3つ）



2023 年度結果では、採用時に最も重視されるのは「人柄（94.6%）」、次に「コミュニケーション能力（76.1%）」であった。その後、「今後の可能性」「貴社への熱意」が 4 割前後で続く。その他の項目は 10% 以下となっている。（例年通りの結果）

◎過去 3 年間で、重視される上位 4 項目：①「人柄」②「コミュニケーション能力」③「貴社への熱意」④「今後の可能性」は変わっていない。

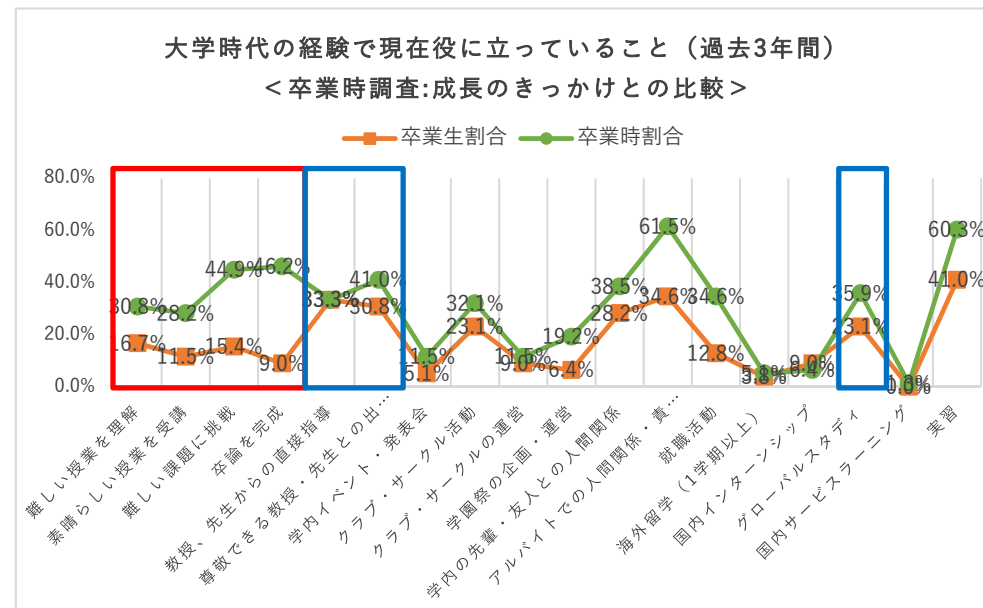
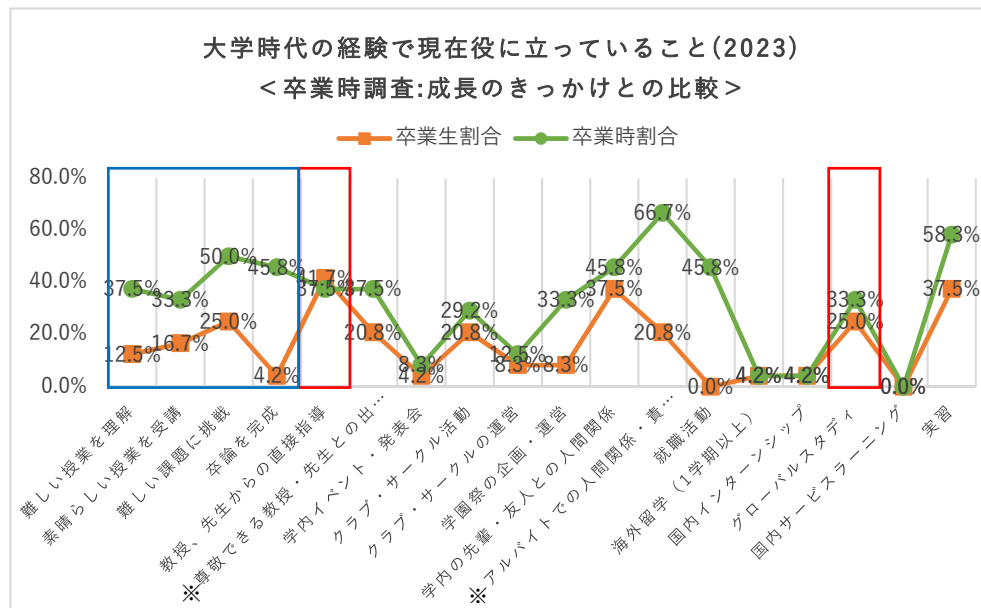
<ご参考> 企業・関係団体への意見聴取結果報告（2022 年度実施）：

Q.採用プロセスにおいて、学生の学修成果として活用したい情報やデータについて

- ・（企業は）経験の事実だけでなく、経験を通じた心境や行動の変化を語れることを求めている。
- ・一般的な情報以外では、学生の性格や物事の見方・考え方について知りたいという要望があった。

（例）性格テストの実施／論述式テストから性格や考え方をみる など

Q. [卒業生調査] 大学時代の経験で、現在役に立っていること（3つ選択）



※「卒業時調査」と「卒業生調査」両方の回答がある学生での集計（2023 年度調査：n=24、過去 3 年分（2021-2023 年度）合計：n=78）

※尊敬できる教授・先生との出会い ※アルバイトでの人間関係・責任の重さ

＜2023 年度結果＞ ※おおむね昨年と同様の傾向

- ・卒業時に成長のきっかけとして選択割合の高かった「難しい課題に挑戦」や「卒論を完成」は、卒業後にはあまり役に立っていると感じられていない。
- ・一方で、「教授、先生からの直接指導」は卒業後の方が高い。「グローバルスタディ」や「学内の交友関係」も比較的高い割合を卒業後も維持している。
- ・「アルバイトでの人間関係・責任の重さ」「就職活動」などの経験は社会に出た後の影響は少ないか。

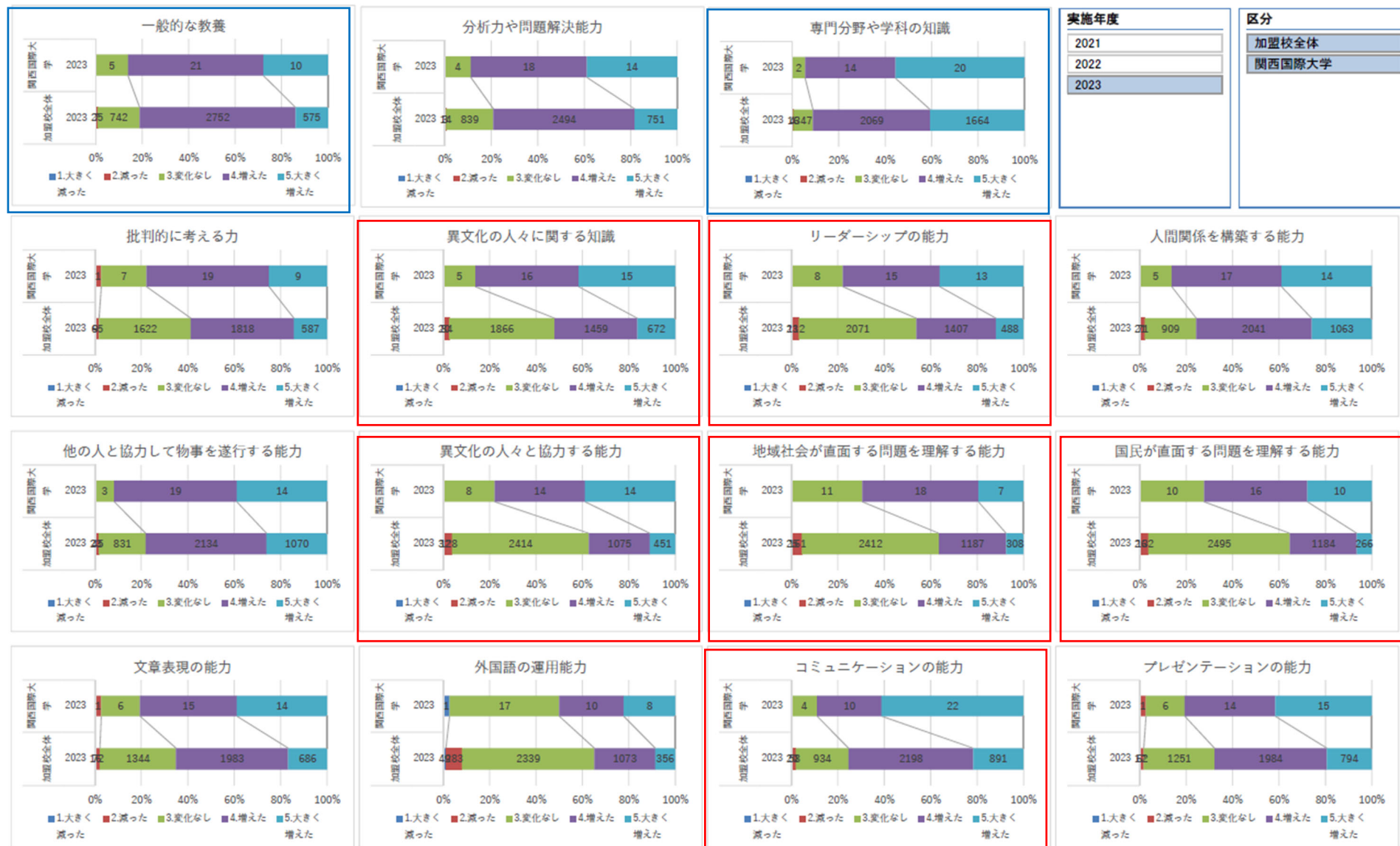
＜過去 3 年間での集計結果＞

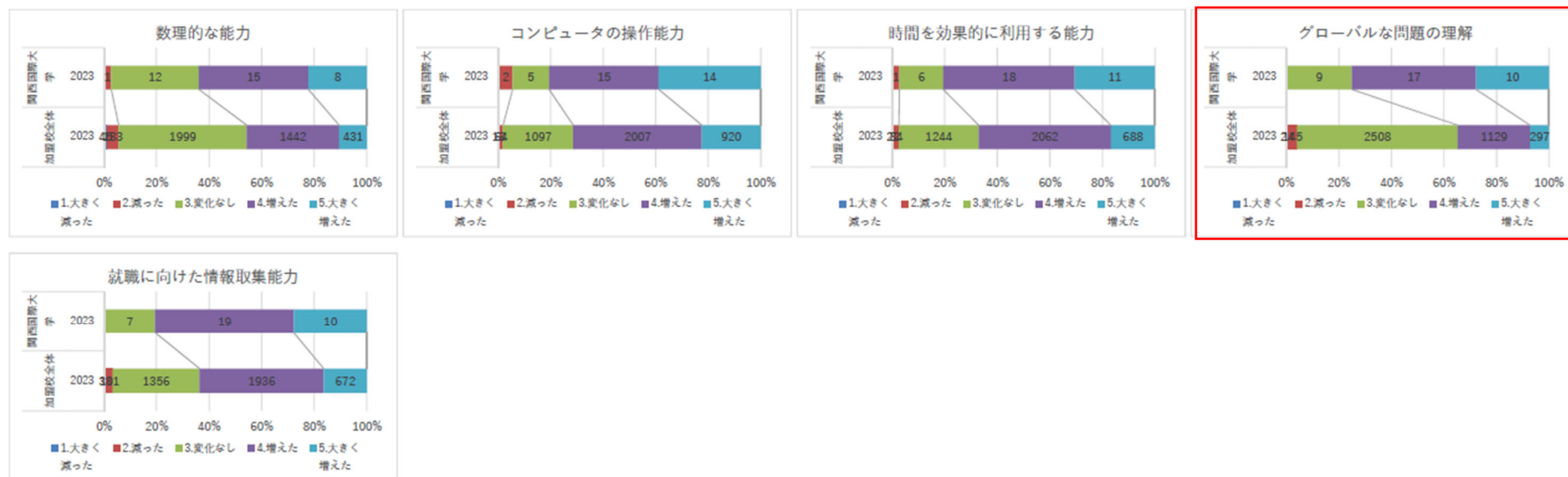
- ・3 年間での集計ではさらに傾向が強くなる。「難しい課題に挑戦」「卒論を完成」は卒業時の選択率から低下、一方で「教授、先生からの直接指導」「尊敬できる教授・先生との出会い」は、卒業時からほぼ変わっていない。
- ・クラブ・サークル活動、学内先輩・友人関係、経験学習なども、卒業後の回答割合を維持している（過去 3 年間の傾向に大きな変化はない）。

◎「教員との出会い（関係性）」や「経験学習」で得た経験は、卒業後の社会生活においても影響（長期的な効果）があるのではないか。

❖ 調査結果 2：他大学との比較（大学 IR コンソーシアム「卒業生調査」結果との比較）

Q. [卒業生調査] 在学中を振り返って、知識や能力はどのように変化したか。





<2023 年度結果>

すべての項目で、「大きく増えた」「増えた」実感の割合が加盟校全体よりも上回った。

- ・特に上回っている項目：「異文化の人々と協力する能力」「グローバルな問題の理解」「国民が直面する問題を理解する能力」「異文化の人々に関する知識」「地域社会が直面する問題を理解する能力」「リーダーシップ」⇒アクティブラーニングや経験学習で伸びる能力が特に差が大きい
- ・差が大きい項目：「一般的な教養」「専門分野や学科の知識」など ⇒ただし、能力の伸長実感度は8割を超えている

◎経験学習やアクティブラーニングをはじめ、本学の教育を通して在学中に伸びた能力は長期的に（卒業後も）影響していることがうかがえる。

以 上